

**平成28年度 第1回
千葉市本庁舎整備検討委員会議事録**

- 1 日 時 : 平成28年5月31日(火) 13時00分～14時30分
- 2 場 所 : 千葉市役所議会棟 第3委員会室
- 3 出席者 : (委員)
柳澤委員(委員長)、関谷委員(副委員長)、近江委員、大槻委員、
菅野委員、小久保委員、指田委員、古谷委員、元木委員
(事務局)
宍倉局長、米満部長、内谷庁舎整備室長、野澤管財課長補佐

4 報 告

- (1) 千葉市新庁舎整備基本設計方針の策定について
(2) 新庁舎整備 取組経過と今後のスケジュール

4 議 題

- (1) 基本設計に向けた今後の新庁舎整備について
ア 周辺環境を活かした建築計画について
イ 1・2階の導入機能や運用について

5 議事の概要

- (1) 基本設計に向けた今後の新庁舎整備について
事務局より資料に基づき説明の後、意見交換を行った。

6 会議の経過

(1) 開会

(野澤管財課長補佐) これより、平成28年度第1回千葉市本庁舎整備検討委員会を開会する。千葉市情報公開条例第25条に基づき本会議は公開され、議事録及び資料も公開となるので、予めご了承いただきたい。また、傍聴に際しては、注意事項を守ることをお願いしたい。

本日は、半数以上の委員が出席しており、本会議は成立していることをご報告する。
以後の進行は柳澤委員長にお願いする。

(柳澤委員長) 平成28年度第1回目だが、このメンバーでの議論というのは一旦収束するので、言い残したことがないように、活発なご意見をお伺いしたい。

本日は、基本設計方針策定の報告について、それから、新庁舎整備事業の今後の予定について、それから、議題が2件ありまして、周辺環境を生かした建築計画について、1・2階の導入機能や運用についてということです。
それでは事務局のほうから説明をお願いします。

(2) 報告

(事務局 内谷庁舎整備室長 資料説明)

(3) 議題

(事務局 内谷庁舎整備室長 資料説明)

(柳澤委員長) 基本設計方針が策定され、新庁舎の配置場所はL字型で配置をするという方針を定めた。

空間構成についても、大まかな方針が示されており、1・2階の利用の仕方、フロントオフィスとバックオフィスの配置、それをL字型に合わせてバックオフィスのほうをみなと公園側、フロントオフィスを臨港プロムナード側という方針。それから、議会機能を上層階に持ってくるという、方針が示された。

議論するのは、資料①の建物の形状のイメージのL字型だが、一体的にL字型で、同じ階をつくっていく場合や、バック棟・フロント棟の2つに分けて、ゾーニングを明確にした上で繋げるような形などもある。

議会の位置も全体の上か、低層棟の上かという案もある。空間構成については、フレキシビリティがあると思う。

また、資料②で、新庁舎、低層階のイメージが示されているが、これもあくまでも案。そのため、1階と2階のどちらがメインになるのかということも、臨港プロムナードやみなと公園との関係によっても変わる。アプローチも1階になるのか2階になるのか。2階から入るとすると、2階がエントランスの中心になる。アプローチやエントランスにより、機能についても、どこに何を置くか、臨港プロムナード側・みなと公園側にどんな機能を置くのか変わってくる。前は、1階と2階を一体的につくろうとか、大ざっぱな意見はあったが、具体的な意見やこれを見てどう感じるか、具体的な意見を伺いたい。

テーマとして、全体の建築計画・空間構成についてと、周辺の臨港プロムナードやみなと公園との関係をどうするか。この2つを中心に、自由に意見をいただきたい。

(近江委員) 資料②でフロント側の使い方案について、これをまちづくりの中でどう利

用されていくかという観点から、引き続き庁内や議会、一般市民、周辺住民が、どう使うかという合意形成をして、決めるとよいと思う。そのため、空間構成はフレキシブルにしておくのがよいと思う。

この辺（場所）で何かあるという状態で、いろんな人が集まるような、人を引きつける空間になると良い。

それからこのフロントのところで、サービスレベルを上げていくシンボルになるような使い方ができると、いろんな事業が引き込める。そういう意味で、建築的なところも、日本的・千葉県のどうか、建築デザインみたいなものが活かされると良いと思う。

(柳澤委員長) 非日常で機能するためには日常的に人が集まるような場所になっているほうがいい。

世代を超えて、小さい子がいるお母さんも、高齢者も若者も、役所に用事がなくても何となく立ち寄る、何かあったときにも来るといいう仕掛けがあるといいと思う。そういう目標を明確にできればいいと思う。

また、デザインも重要。千葉らしさが和風なのか、緑なのか。千の葉なので、エントランスに入ったらグリーンが目に入るとか、屋外に緑の庁舎みたいなイメージにするか。やり過ぎるとコストがかかるが、イメージづくりも重要。

(古谷委員) 人を呼び込むイベント等は1階のほうが外から人が入りやすい。本庁舎としての役割は2階でもいい。

あれこれ盛りだくさんにせず、グリーンとかおもてなしとか千葉らしさとか、何かテーマを1つ決める。1階は入りやすいスペースにして、何かのときに多くの人利用できるようにするといい。企業や店、テナントを入れる必要もある。外から見て入りやすいカフェなど、立ち寄って一息したいなという、楽しみがあればいい。

(柳澤委員長) 今、レストラン・カフェは2階の想定だが、2階を動線の中心に考えると、1階が臨港プロムナード側の現庁舎を避ける関係で、道路側にやや迫ってくるが、臨港プロムナードを歩いたり、みなと公園のほうに歩いたりする人たちが引き込まれるような仕掛けもある。

1階・2階両方ともにカフェなど設けるとか、レストランは2階建てにするなど。

では、菅野委員、お願いします。

(菅野委員) テーマとして「不安を解消する市役所」。不安というのは、将来への不安、それは健康。有事への不安、それは災害時。そして人生への不安というので、結婚という、3つを考えた。

例えば健康という意味であれば、1・2階を1メートルぐらいの幅でスペースを使って、はだしで歩いて石がぼこぼこしていたりとか、そんなふうには1階と2階を連続して歩けるようなスペースで、それがたまには外に出てしまったり、みなと公園までその機能が續いていたり。雨の日も晴れの日も歩くことで健康不安がなくなるという不安解消。

もう1つは有事の不安ということで非常食カフェ。普段食べないから、非常時になった時に初めて食べる非常食というのは不安である。だが、普段から親しんでおけば、非常時も抵抗なく入ると思う。非常時にやることをあえて日常でやるというスペースをつくることで、有事の不安を解消する。

もう1つが人生に対しての不安ということで結婚。千葉に住む人が本庁舎のイベント・パーティーで知り合って結婚する。そのまま千葉に住み、家族をつくる。そうすると本庁舎が特別な場所になり、千葉市に根づくということにもつながる。「不安を解消できる本庁舎」をテーマにして、いろんな機能をつくっていくのも楽しいと思う。

(柳澤委員長) 本庁舎を婚活の拠点というのは大胆な提案だと思う。健康は、先ほどの「緑」というのにつながるかもしれない。公園を見ながら、自然にも触れられるような。庁舎にありながら、自然が目に入り、おいしい空気を吸えそうだ、みたいなのもあるかもしれない。ランニングしたりウォーキングしたりするコースになっているというのもあり得るかもしれない。

(古谷委員) 道路を高架で渡るというのもいいと思う。

(柳澤委員長) みなと公園の利用について、庁舎の配置とか、1階・2階に何を持ってくるかというのは非常に重要。

公園も今の森のようにしておくのか、災害のためにオープンスペースにしたほうがいいのか、人を引きつける仕掛けが欲しいのか、それらを組み合わせていくのか、みなと公園をどう整備していくかというのも非常に大きい部分だと思う。

現状ではあまり想定できない部分であるため、みなと公園の理想的なあり方があり、そのために先行して庁舎を意識して整備するという事はあるかと思う。

また、逆の、先ほどの将来の有効活用という、国道側の敷地についても、ここに何ができるか、どういう建物が置かれるかということによっても大きく変わってくると思う。今は両方を想定できずに庁舎だけ考えるということになっているので、難しいところではある。だが、庁舎はそういうことを意識しながら整備して、将来的に誘導していくという考え方もあるとは思う。

では、一通り発言してください。

(小久保委員) にぎわいなど、まちづくりの一環として周辺も考えてもらいたい。それで将来に発展、伸びていく。

最近千葉市の周辺で、グランドデザイン、3つのエリアをつくった。でも、こういうのはどうしてもそのエリアだけでイメージを決めてしまう。だが、点から線・面というか、つながりが抜けていると思う。だから、地域ごとに特色を持っているという発想ではなく、拠点とするからには、市役所の周辺、千葉みなと駅、千葉駅、千葉港、これが線に伸びるようなまちづくりを考えてもらいたいと思う。

例えば、区役所は6区あるが、それとウォーキングコースをつくる。観光の名所とか案内も兼ねてWi-Fi等を整備して、意識せずに6区や避難所を普段から回ることができるようにする。歩いているうちにウォーキングコースになったり、ランニングコースになったり、歩道になったり、ショッピングの拠点になったり、休憩ができたりする。体で体験できる、頭の中ではなくて日常から健康づくりやショッピングができる。案内板も観光も避難所も兼ねてできるようなまちづくり。点ではなくて、点から線・面へという発想をしてもらいたい。

2番目に、建物は幾つかあるが、情報発信について、庁舎は国道側からも港側からもモノレールからも情報が発信できる。情報が壁から見えるようにする。災害のときにも情報発信ができる。文字でもライトでも壁が利用できる。そういう建物を考えるのもよいと思う。

夜でも光っていれば目印になる。空からもすぐわかると思う。

建物自体が、シンボル・中心だというイメージで、まちの道案内ができるようなイメージをつくるアイデアをやってもらいたい。千葉みなととか、交通の利便性、ウォーキングを楽しみながらできる、というような形で議論してもらいたい。

それにはやはり市役所が、将来も考えるためには組織というのが大事だと思う。組織というのは市だけではできないので、関連企業団体、NPOなども含めて組織化を図る。今、既存のものは幾つかあるけれども、横断的な形にし、アイデアをいろいろ出して検討する組織というのが必要だと思う。だから、ハードとあわせてソフト面でそういうものが必要だと思う。

それから、建物について、ヘリポートやドローンの収納庫とか、そういう発想の建物も考えてもらいたい。

また、みなと公園やポートタワーの広場などに、いざというときキャンプ場になって避難ができるとか、飲み水や食料品がそこに設置できるとか、体験学習の場の施設にもなれる、イベントでもできるような空間を、市役所を中心として連携できるように考えてもらいたいと思う。

また、役所の仕事というと、許認可等で市役所に来た場合、たらい回しになることが

多い。だから、そうではなくて、各課にまたがる場合には、1階に関係課が来て解決してあげる。そういう発想の転換も必要ではないかなと思う。

(柳澤委員長) 庁舎自身をどうするかというのはわかりにくいので、エリア全体の中で庁舎がどういう位置づけになるか。避難という点から考えても、庁舎と隣の公園、ほかにもいろいろなスポットがあると思う。それがエリアの中でどういうふうに関係しているのかとか。

災害ということだけでなく、普段の人の流れみたいな動線やウォーキングなどがこのエリアも含めてどういうふうに関係するのか。そこに新庁舎が人を引き込んでくるような仕掛けをつくるわけで。周りがどういう状況、スポットになっていて、どこに居場所があって、どこを人が動いていてということを理解する必要がある。そういうエリアマップやエリアマネジメントの視点は必要と思う。

それから、情報提供について、今まではロビーで情報をみせるような情報発信の仕掛けやスペースという話をしていたけれども、ビル自身が情報を発信する。電光掲示板のように、よくある高い建物の上に何かあるというようにやるのか、情報自身は直接的な情報はないけれども、シンボリックな形でシンボル性を出して、具体的な情報はロビー空間で出すということもあるか。

オーストラリアの現代美術館は、建物全体が掲示板のようになっていて、文字が出てくるわけではなく、夜になると結構おしゃれな感じで情報発信するような仕掛けになっている。やり方によっては、建物自身が何か情報発信するということもあるのかもしれない。

ヘリポートについて、ここにはない高層階の利用の仕方とか、それを活用する人の話など、まだまだ議論することはあると思う。

(大槻委員) 商店街とか中央コミュニティセンターの地下の商店街などを見てみると閑散としている。いろんなものが郊外へ並べられている。市役所だから人が集まるかと思ったら、まず同じぐらいではないかなというイメージを持っている。

それよりも災害時の避難場所としての空間をもっと大きくとってもらいたい。1階なのか2階なのか、常時人が集まれる、話し合える場をつくり、いざとなればそれが避難場所になるために、移動が簡単にできるものを置いてもらえればと思う。

それから、役所に来て目的のところに行ける電子案内板の設置は検討しても良いと思う。

(柳澤委員長) 人を導く仕掛けは、いろんなやり方はあるとは思っている。スイッチを押すとランプがついて場所を示すやり方や、コンシェルジュのような人がいて人的に丁寧にや

る仕組み。あとはサイン、色分けを組み合わせていくという方向もあると思う。

ユニバーサルデザインのように、年齢・世代・人種を問わず誰でもわかりやすく、人に親切な建物をどうつくっていくか、というのはあると思う。

人の場合でも、どういう人にもうまく対応できる人というのが重要になるかなと思う。

(元木委員) 配置と建物の形が、第3案に決まったということだが、以前、外と中の空間をつなげて活気あるイベント・お祭りなどをしたいという話もあった。先ほどの話のように、コミュニティセンターの商店街あたりがさびれている。人が来ない。ただ、土日を見ても駐車場はいっぱいになっている。人が来ていないわけではない。ただ、閑散としている。それを活気が出るような形、来たいなというふうにするには、外の空間も有効に使う必要があると思う。

今の配置だと臨港プロムナード側にしても公園側にしても、外の空間に余裕がない。その場合に、千葉港5号線あたりを土日は歩行者天国などにして、公園とつなげて、もっと行き来ができるような状態に使うような考えも。

そうすると、外のイベントをするのに土日を使うとなれば、外から使える準備室や控え室も1階にあるべきではないか。あと、売店も必要ではないか。

(柳澤委員長) 今の指摘は非常に重要と思う。L字型の配置は、既存庁舎を避けているので、にぎわいをつくろうと思っているところに建物を寄せている。つくり方によっては壁をつくってしまい、敷地に人を引き込むのと逆行する可能性がある。

つくり方だとは思うが、1・2階、特に1階なんかは、少しセットバックさせて、人を引き込むような空地を用意して、建物的には2階か3階ぐらいからせり出してくるということや、ぎりぎりまで建物を追いやるということもあるかもしれない。必ずしもどっちも道路側に張り出してなくても、みなと公園側はちょっと引っ込んでとか、臨港プロムナード側はもうちょっと引っ込んで、そこに人が集まる空地をつくるとか、そういうこともあると思う。

逆に現庁舎は新庁舎建設後に壊されるので、そこがある意味オープンスペースにはなってくるので、そっちのほうに人を引き込んでいくということもあるのかもしれない。

例えば臨港プロムナードや千葉みなと公園側から人が抜ける仕掛けをつくってみる。今の既存庁舎のあたりが、広場的になっていて、臨港プロムナードを歩いていくと、向こうに何かあるので、すーっと入っていく。そこに集まってもいいし、何かお店が面していて、場合によっては休みの日にはフリーマーケットになるような、そういうにぎわいの広場みたいなものが、道沿いではなくて、ちょっと一回奥に入れたところで発生するということもあるかもしれない。

閉庁時のセキュリティーについてどうするか。建物を閉めてしまうと、外側だけでに

ぎわいをつくるのは難しい。そこで、1階はオープンにするのか、例えば2階ぐらいまでは、庁舎を閉庁時でも開放していて、そこが自由に使えるようにするのか。その辺のやり方というのは考えなければいけない。

(近江委員) 抜けのいい空間を作るための丸の内の取組みでは、最近の仲通りのところは、公共空間活用の枠組みで歩行者専用道にしてイベント事をやったりしている。札幌でも地下空間をうまく利用している。ああいうのを5号線のところに持ってくると、一体で何かやっている感じがある。

みなと公園の一体利用みたいなことを考えたときに、オフィスで仕事している間に、サーキットトレーニングができるようになってきているような例もあるので、建築から離れてしまうのですけれども、そういう一体での利用みたいなことを想定してユーティリティーを考えていくと、自然とデザインとかコンセプトも決まっていくのかなと思う。

(柳澤委員長) 屋台というか、スタンドみたいなものが広場みたいなところであって、お昼のランチに出でいたりしている。

博多あたり、中洲あたりでは屋台が出ていて、あえてそういうものを仕掛けるほうが、商店街みたいなものをつくるよりはにぎわいが、人気のあるものだけ残るので、そういうのがあってもいいかもしれない。

アメリカのサンディエゴにあるホートンプラザは、1つのショッピングセンターなのだけれども、あえてテラスみたいなものをつくって、屋台みたいなものがたくさん、普通のブランドの店と別にあって、それがにぎわいを呼んでいたりするので、何かちょっとそういうイレギュラーな仕掛けもいい。

(指田委員) みなと公園の木はやはり貴重なので全部つぶすということはない。そうすると、災害時のオープンスペースとしては使えない。今の余剰地と言われているところはやはりそのまま余剰地にして、グリーンか何かにしておいた方がいい。災害時にはそこが使えるのと、先ほど跡地をマルシェみたいにしたときに、実は国道側から建物がなくてそこが見える。なので、そういうにぎわいというのは国道側からも見えるので、そこは空き地にしておくのが一番いいのではないかな。

市役所の庁舎としてインキュベーションを考えていきたいというのがあったときに、例えばNPOなどを、このフロントのところの3階・4階に入れていくのだとすれば、そういう人たちの出店みたいなものを1階・2階につくれるようにするというのがコンセプトとしてあっていい。

フロント棟に何が入るかによって、少しこの1・2階が影響を受ける。そこを少し考えておかなければいけない。これが平時の考え方です。

有事の際に忘れてならないのは、ここは高潮エリアなので、水害時に1階が水没する可能性があるということ。これは常に忘れずに、設計しておかなければいけない。

また、今回の熊本の被災は、政令市が大々的に被災をするという意味では、神戸に近い形でかなり建物被災の影響が出ている。市庁舎が被災した場合、益城町などではすごく大きい影響が出るのがわかっており、耐震性について、しっかりやっておかなければいけないことに反対する人はいないだろうと思う。

有事の際の情報公開については、熊本の事例をしっかり情報を収集し、罹災証明やライフラインの状況などのためのスペース展開をどうやるかというのを見ておかなければいけないだろうと思う。今回熊本では、コンビニエンスストアの開店状況を一元で欲しいというニーズがあった。ここ（千葉市役所）は近くにライフライン企業が全部集中しているので、そういう回復状況などを一元的にここで情報提供できれば、とてもいいが、それをどこでどうやるのかという設計を今から考えておかないといけない。

（柳澤委員長） 前回の委員会の後に熊本の地震が起こったので、指田委員から再度いろんな情報をいただきながら、改めて災害に強い庁舎について考えることも必要かと思う。

あと、緑が意外と重要だという話では、スペース確保のために木を切り倒して広い広場にしたほうがいいのかという話がある一方で、例えば日陰をつくる効果もあり、やはりある程度自然環境を残すというのは災害時も重要だと思う。

それから、ライフラインということで、災害時に電気やガスやそういうのが切れたときに、拠点性を持つために、その辺の議論をあまりしていない部分はあるのですが、例えば自然エネルギーでしばらくもつとか、何日間は自家発電できるとか、そういうものがあるのではないかと思います。

「ZEBビルディング」という、太陽光パネルなどを用いて、自分のところで全部エネルギーを賄うビルがある。5割発電を賄えばZEBビルというらしいが、それを0%までもっていかると聞いている。例えば庁舎が、全ての電気、ガス、水道がとまっても1週間は大丈夫という建物にするとか、そういった仕掛けもあり得るのかなと思う。最近の技術によって、いろんなことができるようになってきているので、ライフラインをつなぐための拠点機能を、どこまで庁舎に持たせられるか、ということもあり得るのかなと思う。

（関谷副委員長） 本庁舎であるということをも改めて踏まえた上で、1つは例えば災害時においては、それぞれの区役所を中心とした体制、それから各周辺の避難所、そこがまず基本的なベースであって、さらにそれらを統合するというか、媒介するものとしてこの場所がある、あるいはこの本庁舎が大きな意味を持つという、位置づけをしっかりとできるかどうか。そういった使い分けということも、職員の方もそうですし、市民の方々

が日常性の中で定着させていけるかどうか、そういう使われ方を目指せるかどうかというのは、すごく大きいと思う。

そのため、どういう意味でこの場所に来るのか、どういう意味でこの役所が機能するのかということ、今後改めて、特に機能面では考えていく必要があると思う。

そういう意味では、本庁舎というのは千葉市の中心である、と捉えられてきた部分もあると思うが、多分、1カ所に全てを集約していくという時代ではなくなっている。千葉市の中心というよりは、いろんなネットワークの媒介としてこの本庁舎が位置づけられる、ということ、今後各方面に少し浸透させておく必要があると思う。

それから、情報という部分でも、各情報を発信していくことと、各方面からの情報を集約してつないでいくということについて、その辺をどう膨らませていくのかというのが、1・2階の空間利用のあり方なのかなと思う。

私は柱としては2つあるかなと思っている。1つは、カフェやレストランなど、市民向けサービスの意味合いである。単なるカフェ、単なるレストランというのではなく、役所に付随している場所として、千葉市にあるいろんな資源を使った形での出店だとか、商品開発をしていくお試しの場所であるとか、単なる商業施設ではない意味合いを持ち、そこから可能性が膨らんでいくことがまず大きな柱の1つなのかなと思う。

それからもう1つが、政治行政を踏まえたアゴラの意味合いである。これは、いろんな人たちが集まってきて、情報を共有しながら、広い意味でいえばまちづくりということを考えていくというのが1つの柱。市民にせよ企業にせよ、いろんな人たちが集まってはいろんな提案をしたり、話し合いをしたり、そこからいろんな事業をつくり出していったりする、そういう空間として活用していくことが必要なのかなと思う。

フロント、バックの区分をすると、バックからフロントに情報が出てこないという可能性があり、情報の発信空間としてフロントの位置づけが重要。

例えばこの例示に上がっているような市政情報室とか市民センターとか会議スペースとか、こういった発想では情報というのが固定化されている。今、千葉市はこういう状況にあるのだという、各種情報がここに行けばどんどん収集できる、あるいは市内のいろんな取り組み情報というものがここに集まってきて、こんな取り組みが千葉市の中にあるのかということを知ることができる場、そういう情報空間にしていかないと、単なる市政情報室の延長では全く意味がない。

それから、会議スペースというのも、もっと発想を変えて、例えば半円形のような空間スペースをつくって、階段を後ろに行けば行くほど高くして行って、そこでプレゼンができるような場にする。今、千葉大の図書館にミニスペースがあり、いろんな学部の先生とか学生たちが集まってきて、昼休みはいつもそこで何かやっている。単なる会議室だと誰も来ない。プレゼンができたり、話し合いができたりという、そういう場があってもいいのではないか。

今、千葉市もドローンの実験なんかをやっているようですけれども、ちょっと実験できるような場があったりしてもある種の話題性を呼んで、それも情報発信につながるだろうから、そういう空間にもなり得るのではないか。だから、そういうことも含めて、政治行政を考えるアゴラ的なものをどういうふうに広げていけるか。

基本設計方針では、議会が最上階にあるが、議会はもっと市民目線に下りてこなければいけない。その目線の中で情報をどういうふうに市民に発信できるかというのがこれからの議会の生き残りの部分かと思う。行政情報だけではなくて政治情報も含めてそこをどう開けるかということがすごく問われていると思う。その意味でのアゴラ機能というのはもう1つの柱です。二つの柱を十分に念頭に置いた形で、この低層スペースの意味合いを少し膨らませていただければと思う。

(柳澤委員長) 市政情報室は何となく発信しようとしているのだけれども、結局誰にも伝わっていかないということもあると思う。市から情報提供し、市民からも情報提供してもらい、お互いにシェアする。

何かそこに行く特色みたいなものがあって、そこでまた情報が見つかり、あとは逆に自分からも情報発信ができて、お互いに知る、そこに行く新しいおもしろいことが常に共有されている。

閉じた部屋を借りて内向きの会議をするということだけではなくて、何か外に向けてやっていると、たまたま来た人がそれを見て入ってくる、野外劇場のような場所というのが当然あっていいかなと。

したがって、ハードとしてだけではなくて、ソフトの組織もつukらないとだめなのかもしれない。情報発信共有室のような官民連携の組織も必要で、ソフトとハードがうまく連携していかないといけないのかなと思う。

先ほど指田委員に聞き忘れてしまったが、災害というのをイメージすると、やはりバックとフロントが分かれている方がいいのか。もしくはどういう形でも対応できるのか。

(指田委員) つくり方を免震にするのか、耐震でやるのか、によって全然違っている。免震で全部持てるのであれば、形状はかなり自由につくれると思う。

そうではなくて耐震でやるとすると、揺れ方の問題があって、今回の熊本でジョイントのところが切れたマンションのケースがあったが、そうした場合は一体化のほうがいいのだろうと思います。

議会をフロントに持ってくるのだとすると、フロントの高さがどれだけとれるのかによっても違ってくる気はする。

(柳澤委員長) 予定の時間が過ぎてしまったので、時間なのでこれで終わりたい。今後

のことなど、事務局の方から何かあればお願いします。

(庁舎整備室長) 長い間、貴重なご意見いただきありがとうございました。今までいただいたご意見については基本設計にできる限り反映させていきたい。引き続きご協力、ご助言いただければと思う。

(宍倉財政局長 挨拶)

(柳澤委員長) 平成28年度第1回千葉市本庁舎整備検討委員会を閉会する。

(了)